

博物館だより

No.177



令和3年8月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2021年8月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

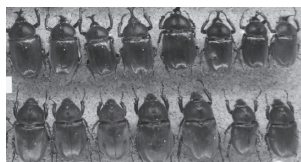
休館日 ※情報はR3.8.1現在

◆博物館NEWS

博物館の「いろどりミニ展示」第3弾 開催中！

- 1 いっぴんミュージアム「リアル三四郎の世界を観る」
- 2 ささやかギャラリー「自然の美・人為の美」「昆虫標本と草木画」
- 3 向井澄男ミニ写真展 Vol.3「輝(かがや)く・歓声の溢れる光景」
期間：9月26日(日)まで

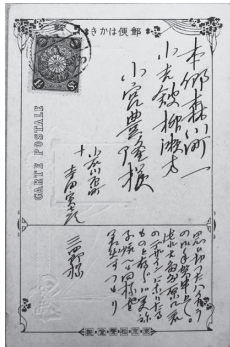
博物館では昨年度からwithコロナ企画として「いろどりミニ展示」と題した3種のミニ展示を始めましたが、その第3弾として以下のミニ展示を用意しました。
タイムリーなもの、初お目見えのものなど、小粒ながらも「ピリリ」と楽しめる内容のうえ、交流スペースとなるフロアを利用する関係上「無料」で開放しております。



▲八景山中で採集された甲虫類(カブトムシ)



▲サーフィン(宮崎市/1990撮影)



▲三四郎(小宮豊隆)宛絵はがき

①ちっちゃないっぴんミュージアム

「リアル三四郎の世界を観る」と題し、漱石作品『三四郎』の登場人物のモデルとされた人物ゆかりの資料10点を紹介します。
三四郎(小宮豊隆)宛絵ハガキや美禰子(平塚らいてう)の評論、与次郎(鈴木三重吉)のモデル辞退屈といった、殆どが初公開のユニークな資料が勢揃いします。

②博物館の「ささやかギャラリー」

二つの美を比較する試みとして昆虫標本(松田勝弘資料)と草木画(鶴田知也資料)を並列展示します。昆虫はこの季節が活動期の甲虫類標本4箱、草木画は町出身で第3回芥川賞作家の鶴田知也が晩年描いた身近な植物の水彩画8点です。自然に描き出された点で「違うのに共通する」美を見出して下さい。

③向井澄男ミニ写真展「輝く」

ふるさと写真家・向井さんの写真展第3弾は、開催中の東京五輪に想いを馳せ、スポーツを楽しむ人たちの「輝く」瞬間を切り撮った写真45点を紹介します。競技スポーツのほか、ニュースポーツやパラスポーツ、運動会やその応援姿など、スポーツを通じて人々が「輝いた」瞬間の写真を紹介します。

◆講座・教室・催し物ガイド 8月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
8月7日(土) 9時30分～
- 【古典かな講座】
8月21日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】
8月28日(土) 10時～
- 【みやこ学講座】
8月28日(土) 13時30分～

※日程等変更となる場合があります。
※見学士卒等は別途ご案内します。



▲参考：過去の講座の様子(みやこ学講座/R1.9月期)
みやこ学講座では現地や現物からの発見を大事にしています

「文化のみやこづくり」記念 絵画・作文コンクール作品募集!

博物館では京築地区に在住・通学する小・中学生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを行います。

絵画は「わたしの町の過去・現在・未来」をテーマに、作文は「歴史をテーマとしたもので募集します(ただし、作文は小学5・6年生のみ対象)。夏休みの取組みにぜひご応募下さい。

詳しい応募方法は、博物館
☎33-4666へお問合せを!

7月の業務日誌から

黒田小学校6年生の児童30名が、学校や校区内にある古墳について分かりやすくまとめたパンフレットを作成しました。町の施設で配布・活用してもらうことを目的として7月2日(金)、井上町長にパンフレットの贈呈及び各古墳について説明を行いました。

6月25日(金)～8月25日(水)までみやこ町中央図書館で、博物館の出張展示事業「古代のジュエリー勾玉展」を実施しています。博物館・図書館連携事業の一環としてはじめて実施したものです。きらびやかな古代のアクセサリーを是非、ご堪能ください。



▲パンフレットの作成を通して、黒田校区やみやこ町の歴史がもっと好きになりました



▲展示ケースに色とりどりの勾玉が陳列された様子はまさに「古代の宝石箱」です

みやこの歴史発見伝 140
令和とその時代 18

―豊前国分寺三重塔を科学する③―

「町内最古の瓦」と「蓮の花」

例年、お盆の季節を迎えると、「蓮の花」の飾り物を目にする機会が増えます。「蓮」は夏の季語にも用いられ、仏教関連の施設や道具の装飾に不可欠な花で、特に各種の仏像をみると頭部から足部まで蓮の花で飾られていることが確認できます。

みやこ町の建物に屋根瓦が葺かれたのは7世紀後半頃とみられ、先月ご紹介させていただきました上坂廃寺（みやこ町上坂）では、この蓮の花模様が型押しされた「みやこ町最古の瓦」が出土しています。上坂廃寺建立から約50年後に建てられた豊前国分寺でも同様に蓮の花がデザインされた瓦が出土しており、みやこ町では古くからこの花が仏教寺院と深く結びついてきたことが伺えます。

今回はこの「蓮」という花を通して、三重塔の瓦について詳しくご紹介します。

仏教の花「蓮」

蓮は、泥や湿地から成長し、高く可憐な花を咲かせる姿が、一切の欲に執着せず修行に励む修行

者の美しい心にたとえられます。考古学的にも非常に興味深い植物のひとつで、国内では、弥生時代の遺跡から出土した蓮の実を植えなおしたところ、約2000年ぶりに発芽させることに成功した事例をみるることができます。

蓮の花を圖案化した文様を「蓮華文」と呼びますが、その起源は古代エジプトまでさかのぼり、インドでは2200年前の仏塔（ストゥーパ）の装飾に用いられています。その後シルクロードを経由して中国・朝鮮半島で発展し、日本に伝わった後は現在まで仏教文化に欠かせない文様として用いられています。

中華料理等で使用される陶製スプーンを「散蓮華」とよびますが、この名称はその形状や大きさが、散った蓮の花弁によく似ていることから付けられたといわれます。

屋根瓦のルーツ

瓦は屋根葺きに用いられる建材で、日本の瓦のルーツは中国にたどることが出来ます。しかし意外にも西洋でも古くから使用され、古代ギリシャ建築を代表する「パルテノン神殿」でも大理石製の瓦が葺かれたことが確認できます。「日本書紀」では588年に百濟（4〜7世紀頃、朝鮮半島南西端に位置した国家）から仏教と



蓮の花



上坂廃寺出土蓮華文軒丸瓦①
(町内最古の瓦)



上坂廃寺出土蓮華文軒丸瓦②
(豊前国分寺・国府でも使用された瓦)

でも早くから仏教寺院が建立され、その規模は大宰府周辺の寺院に匹敵するものでした。特に上坂廃寺では国分寺の軒丸瓦の制作につながる貴重な瓦が出土しています。

二種類の「蓮華文」軒丸瓦

上坂廃寺では、主に2種類の蓮華文の軒丸瓦が出土しています。一つは瓦の縁に沿う同心円の中に8枚の蓮の花弁が浮き彫りのようにリアルな型押しによって表現されたものです①。これはその形状から7世紀後半頃に作られたものとみられることから「みやこ町最古の瓦」に位置付けられ、また先に述べた朝鮮半島の百濟にルーツをもつものです。もう一方の瓦の文様は、ギザギザの三角文(鋸歯文)に囲まれた中に「デフォルメ」された形で19枚の蓮の花弁が表現されています②。こちらの瓦が豊前国分寺・国府跡から出土したものと同形式であることから、同じ型で作られた可能性が高いものと思われま



豊前国分寺三重塔軒丸瓦
(出土資料から復元され改修の際に葺き直されたもの)

蓮の花から辿る

1300年前の国際交流
このように蓮という花が奈良時代の瓦の文様に用いられるまでにアジアを舞台に国を越えて展開した文化交流の歴史を復元することが出来ます。これらの関連資料は仏教美術の研究の上でも大変重要な資料に位置付けられています。

豊前国分寺の軒丸瓦にみられる蓮華文もこのような仏教美術における一つの終着点ととらえることができ、今後も「蓮」は仏教文化を象徴する花として多くの人々に親しまれていくことでしょう。

(井上信隆)